

気になるニュース わたしの視点

8月8日の中濃・東濃・飛騨広域ワイド面で、「鬼岩公園の御朱印の授与料全額を熊本地震への義援金とする」という記事がありました。この記事に出てくる、鬼人で悪行を働いたが福鬼として蘇ったといわれている「関の太郎」をはじめ、一つの胴体に二つの顔を持ち各々に手足がある大男が村を守ったとされる「両面宿儺」、きこりや狛師の心を読む妖怪「覚」、大きなイワナが僧侶の姿に化けて現れて毒漁をやめさせる「岩魚坊主」など、「人間」的な妖怪や伝説が、岐阜県内には数多くあります。

国際日本文化研究センターの「怪異・妖怪伝承データベース」を集計してみたところ、岐阜県の収録件数は924件（全国11位）で、このうち「人」にフィーチャーしたものは144件（県内の収録件数の約15%、全国13位）となっていました。

道家経営・法務事務所代表 道家睦明さん

鬼岩御朱印 熊本の一助に



鬼岩御朱印、熊本の一助に



熊本の復興を願い、授与料全額を義援金とする御朱印を待つ川口純一郎さん（前）

「応援「復興」手書きで祈願も」
鬼岩は悪行の限りを尽した「関の太郎」として、鬼人かと思われていたが、金銭・熊本地震を支援する御朱印の授与を始める。鬼岩御朱印所（熊本市日吉）の川口純一郎（しゅんいちろう）さんは、熊本地震の被災者の方々の苦しみや願いを、一刻も早い復興を願うという思いを込めて、御朱印を授与している。

観光協会、きょうから授与料全額寄付

8日15面（中濃・東濃・飛騨広域ワイド面）より

地域住民から崇敬の対象に

に言えば、人について悪い面ばかり見ていると、良い面に出会うチャンスを見失ってしまうということかもしれません。岐阜県の先人たちは、日本の真ん中にいるからこそ、他の地域の人々に対して、良い面を必ず持っているということを意識して付き合ひ、そして、生きていってほしい、という願いを言い伝えにしてきたとも考えられそうです。

◎岐阜新聞

岐阜県内の「人間」的な妖怪や伝説の特徴には、一つの存在に「悪」と「善」が同居しており、一見、反逆者や鬼などのように迷惑をかける存在であっても、地域住民から見れば英雄や守護者として崇敬の対象となっていることが多いようです。「関の太郎」も、鬼岩公園の鬼岩福鬼まつり（毎年2月第1日曜日に開催）では、「鬼は内、福は内」とかけ声がかかるように、地域の文化の一つになっています。

どうせ・むつあき 1965年、羽島郡笠松町生まれ。慶応大商学部卒。中小企業診断士、行政書士。広告会社勤務を経て、道家経営・法務事務所代表取締役。県中小企業診断士協会会長。笠松町在住。

「人は見かけによらぬもの」ということわざは、人を外見やうわべだけで判断してはならないという意味ですが、逆

なお、岐阜新聞では毎月第3日曜日に「岐阜の伝え話」を掲載。岐阜新聞デジタルでも紹介しています。

（引用記事は岐阜新聞デジタルの紙面ビューア22日付朝刊最終面に掲載）